

## 令和7年度 第2回石川中学校学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和7年12月16日（火） 11時30分から14時10分まで
- 2 場 所 石川町立石川中学校 校長室
- 3 出席者 【委員】5名（欠席者なし）  
【事務局】教育課長、主幹兼課長補佐、主幹兼指導主事、学校管理係長  
石川中学校長、教頭
- 4 次 第 1) 校長あいさつ  
2) 授業参観  
3) 給食試食  
4) 議事  
　　令和8年度学校経営・運営ビジョンの策定について（校長より説明）  
5) その他  
　　第3回石川中学校学校運営協議会について（教頭より説明）  
　　日時：令和8年3月5日（木）18時00分～  
　　内容：
  - ・学校教育に関する保護者アンケートの結果について
  - ・令和7年度の生徒の活躍について
  - ・令和8年度の学校経営・運営ビジョンについて
  - ・その他
- 5 議 事  
(1) 令和8年度学校経営・運営ビジョンの策定について  
○学校長より資料に基づき説明（課題：不登校、部活動、教員の多忙化 等）  
(2) 学校運営協議会の予定について  
○教頭より資料に基づき説明  
　　第3回開催日程：令和8年3月5日（木）18時00分～

- 6 意見交換・質疑応答  
(委員等より)
- ・子どもたちが減少する中で、先生方の業務が増えているのは、大変なことだと思いました。
  - ・石川町は、クラブの地域移行が他町村と比べて遅れているように思います。他町村は、少しずつですが動き始まっています。顧問を置かない部の子どもたちは、やりたくてもできる環境がない話しを聞くので、検討していただきたいと思っています。
  - ・生徒の朝夕のあいさつの声がとても大きく、素晴らしいと思いました。
  - ・子どもたちの自主性を重んじて、校則の改定を実施しており、共同生活をしていくうえで、疑問を持つことは必要であり、子どもたちは、疑問を持って行動して変えていく姿があるので、先生方が子どもたちの意見を吸い上げて、より良い学校環境を作っていただきたいと思います。
  - ・年々、子どもの数が減少していて、厳しい現状にあり、学校をどう運営していくべきかと思っています。

- ・部活動の地域移行は、地域クラブ団体の中では、外部指導者の担い手がいない状況です。町内にある地域クラブや活動場所の現状などを説明をしたうえで、進めてもらいたいと思います。
- ・中学生に指導するのは、学校の先生が適しているのではないかと思います。
- ・運動能力の向上など様々な活躍をしており凄いと思います。
- ・不登校生徒の支援について、町としてどのような対応ができるのか、福祉、学校、教育委員会と連携を図りながら、対応していきたいと思っています。
- ・先生方は、日々、業務の大変な中、業務の見直しを図るなど、試行錯誤しながら生徒のために取組んでいることに感謝しています。
- ・子どもたちが授業に取り組む姿を見て素晴らしいと感じました。また、先生方もいろいろ工夫されて、子どもたちが意欲的に活動できるような取り組みをされていて感動しました。
- ・部活動については、先生方の特性や良さを引き出すいい機会ではないかなと思っています。地域移行に頼る部分と学校で先生方を活かしていく部分と両面が上手くかみ合うと教育もいい方向に進むのではないかと感じました。
- ・50周年を迎えるにあたり、学校では式典や記念誌は実施しないの意見には異論ありませんが、特別なことを子どもたちに意識してもらうために、50周年の言葉を付けて催しをしていただけだと生徒だけでなく石川中学校出身の方も思い入れがでてくるのではないかと思います。

(事務局より)

- ・学校の課題にある学力の向上、ICTの活用、検定試験の実施などについて、委員の皆さんからご意見いただければと思います。
- ・学校課題の学力や不登校については、先生方がやるべき学習の準備や子どもひとり一人に対する見取る時間を確保するために、業務改善は必要であると思います。子どもたちの健やかな健康に向けて、先生方が子どもたちと向き合う時間を作るため、教育委員会としても学校と協力しながら、業務の改善を進めたいと思います。
- ・各委員からの評価や改善に関する意見を多くいただき、より良い学校経営・運営に反映させていきたいと思います。
- ・地域移行や業務量管理など、先生方が子どもたちに向き合える時間を作るため、地域移行では、外部指導者が地域にいるのか、地域に受け入れられるクラブがあるのかなどの課題を考えると簡単に進むことではないと実感しているところです。先生方の超勤については、これまでも一定程度の努力はしてきた上で現状ですが、教育委員会と学校で事務の見直しを図りながら、国が掲げる目標に近づけることができるのかと考えると、これも難しい事ではありますが、先生たちが子どもたちに向き合える時間を確保できるような仕組みを学校と協力しながら取り組んでいきたいと思います。